



7月

第33回日本乳癌学会学術総会が開催

7月10～12日に第33回日本乳癌学会学術総会が東京で開催されました。当科からは5題が採用されうち2題がポスターディスカッションに選ばれました。

①BRCA 病的バリエーションが認められなかった乳癌症例におけるLi-Fraumeni症候群の潜在性に関する検討
勝部 暢介、南 華子、長塚 美樹、岡野 舞子、松寄 正實、片方 直人、野水 整

②TNBC におけるCK2免疫染色の意義

長塚 美樹、本間 美和子、岡野 舞子、南 華子、大河内 千代、松寄 正實、片方 直人、田畑 憲一、橋本 優子、野水 整

①は「がんの遺伝外来」担当の認定遺伝カウンセラーからの発表です。

②は福島県立医科大学生体物質研究部門、福島県立医科大学病理病態診断学講座との共同研究です。

他の発表も非常に興味深いものがたくさんありました。すぐにでも臨床応用すべき（できる）ものとして、アピアランスケア（とくに脱毛予防）があります。抗がん剤治療の副作用としてもっとも患者を悩ませるものは脱毛です。この脱毛を予防するあるいは脱毛後の育毛を促進するのが頭皮冷却です。この装置の開発には当科が関わっており（野水・他：癌と化学療法 2023;50(3):321-325）、現在当院化学療法室で稼働中です。



リープ21社のリーフレット画像

全国的にも乳がん治療（とくに抗がん剤治療）におけるアピアランスケアの重要性が認識されてきており、頭皮冷却は大変心強い武器の一つです。最近、手術で注目を集めているのがTAS（Tailored Axillary Surgery）です。これは腋窩リンパ節転移陽性の乳癌で術前化療を実施しそれが著効して腋窩リンパ節が画像的に消失するような場合、これまでは腋窩郭清していたものを標的リンパ節生検および周囲リンパ節を限られた範囲で取ってくるというもので、治療効果を落とさずに郭清の副作用である術後のリンパ浮腫を軽減するものです。これは小範囲の郭清ですがそこまで必要ではなくセンチネルリンパ節生検でも同じような成果を得られるのかどうか、世界的にデータが集まるとだんだんはっきりしてくるでしょうから、もう少し時間が必要かと思います。ただしTASそのものの導入はいつでも可能です。少し先進的な現在研究中の発表として私が注目したのは、エストロゲンシグナルを含む様々な癌関連シグナルを抑制する因子の機能を回復させるペプチド療法です。開発を担っているのは片桐豊雅先生で、かつて中村祐輔先生のもとでBRCA遺伝子研究の全国集計を担当したときに一緒に仕事をさせていただきました（Katagiri T, Nomizu T, et al: J Hum Genet, 43:42-48, 1998.）。

もう一つ最近の話題提供として、今回の乳癌学会でも発表しましたCK2に関することです。CK2（カゼインキナーゼ2）はリン酸化酵素の一つで、細胞の生存に不可欠であり細胞増殖におけるシグナル伝達や生存シグナル制御に関与することが知られています。CK2研究は福島県立医科大学生体物質研究部門の本間美和子先生のライフワークで、本間先生が作成されたモノクローナル抗体を用い、臨床病理学的事項と詳細な経過情報（転帰）を完備した当科手術乳癌症例約200例を用い、福島県立医科大学病理病態診断学講座で免疫染色と結果判断をして、CK2核小体染色結果が予後や化療効果とどのような関係があるかを解析研究したものです。CK2核小体染色結果が予後予測因子として非常に有用であることが証明され、特許庁から「新規性」「進歩性」「産業上の利用への有用性」で高い評価を受け2025年6月11日付で「発明の名称：癌の予後マーカー」が特許登録されました。

乳がんにおけるアピアランスケアについては当院がんのアピアランスケアチームから次号で話題提供させていただきます。（文責：野水 整）

診療実績

乳がん検診受診者数
(R7.5/1～R7.6/30)

郡山市乳がん検診	0件
郡山市を除く自治体乳がん検診	0件
ドック職域検診を含む任意型検診	12件

乳腺外来新患者数
(R7.5/1～R7.6/30)

乳腺新患者様	86件
（紹介の患者様）	51件
（2次検査の患者様）	29件
（乳がんの患者様）	41件

手術数

6月 乳房全切除	17件
1月～6月 合計	96件
6月 乳房部分切除	2件
1月～6月 合計	32件